

品も多く、いい意見が集まる。

ア-2) 福祉用具商品化支援事業 (ワークショップ)

モニタリングは、PL保険に入るが、それに入ることが出来ないような試作品も実際に使ってもらおう。インターフェイス的な役割である。

イ) 福祉用具に関する利用者ニーズの収集

- ・製品化できるものは、ほとんどなく、直接、製品に結びつくようなものは極めて稀。(製品化へ1つでもつながると非常に価値があるとのこと)

- ・HBOでは、集めたアンケートについては、NPOに分析を依頼し、製本し会員へ配布。現在は、この中の声を拾って、「歩行器」が製品化できないか大詰めの手続きを行っている。

- ・アンケートは、既存のテクノエイド等がおこなっているアンケート結果等も有効に活用しながら、情報としてとりまとめる方がより有効である。(福祉分野に精通していない事業者も多いので、福祉の一般的な情報から専門的な情報まで伝えることができるため。)

- ・OT、PT等の声は非常に重要であるため、OT、PTが行う種々の自主的勉強会に参加し、意見を収集した。(財団には、OT、PTなどの専門家はいない)

□事業費

H16 予算：1,000 万円、H17 予算：1,500 万円
(うちアドバイザー経費は、約 700 万円)

(3) 企業側の反応

- ・福祉分野はビジネスチャンスであるという考えはあるものの制度等がよく分からないという面をもっている。よって福祉の制度を知ることが1つのメリットとなっている。
- ・HBOは、利用者、利用施設とのセッティングの場、ワークションの場、安全な(信用できる)場であることを利用して、ニーズと向き合える環境整備を行うことが出来る。

- ・ 介護保険の対象となる商品については、テクノエイド協会等へ申請が必要であり、その手続きの橋渡しの相談などができる有用さがある。
- ・ 実際、商品化するとなると非常に対応が難しいということも理解してもらえます。

(4) その他

特許関係については、発明協会に依頼する。

福祉機器に関するニーズ調査について

1 「あったらいいな こんな福祉用具 大募集」のアンケートについて（第1次集計）

障害者や高齢者本人及びその家族、介護者等から見て、あったらいいなという福祉用具のアイデア募集を行ったところ、その概要は下記のとおり。

ホームページについては、引き続き開設しておき、意見の収集を継続中。

記

- (1) アンケートの内容 別紙（略）
- (2) 募集期間（第1次） 8月12日（金）から9月13日（火）
- (3) アンケートの方法 ホームページ及びアンケート配布によりによる募集
- (4) アンケートの依頼先及び配布部数 約1500部

【内訳】

- ・障害者施設 200部（障害福祉課より配布）
- ・高齢者施設 400部（高齢福祉課より配布）
- ・福祉用具貸与事業所 65部（ " ）
- ・訪問看護・通所リハビリ事業所 100部（ " ）
- ・市町村 各25部
- ・市町村社協 各10部
- ・介護実習センター
- ・関連業者・販売店 （介護実習センターより配布）

- (5) アンケート回答数 20件

(6) アンケートの主なアイデア

- ①便座に座った時にやや前傾姿勢の状態になるように胸や脇などの部分を支えるような器具。
- ②お尻を洗浄するウォッシュレット便座はあるが、肛門部分になかなかうまく当たらないので、シャワー状、もしくはいろんな角度から湯水が出てきて、きれいに洗浄できるものがほしい。
- ③冷え症の患者等へ注目されているアルミシートを使用したところ、保温対策として効果があった。この特性を改良して更によいものになればと思います。
- ④病院やホームでのバスタブなどは、一般家庭と同じく硬い樹脂製で出来ているため、お年寄りには硬く、ゆっくりと入れない。そこで、背中、首、腕、お尻等バスタブにあたる場所にスポンジ等の柔らかい素材のクッションをバスタブに装着する。素材案としては、ジェットスキーなどのシートに使われるウレタンなどを考えています。掃除時にも簡単にバスタブから脱着でき衛生的にも良いと思います。
- ⑤手洗いのホースのように伸びる蛇口は、一瞬しかのばせないが、のばしてしばらく固定できるものがあるといい。

2 障害者・児及びその家族からみた一般製品及び福祉機器に対するニーズの調査を下記のとおり実施した。

- (1) 調査対象：障害者・児の2施設、在宅の障害者・児又はその家族30人
- (2) 調査内容：福祉機器に対してのニーズ150件
- (3) 調査方法：障害児・者及び家族・生活支援者へのアンケート調査、聞き取り調査
- (4) 調査期間：平成18年2月27日～3月15日
- (5) 主な調査結果：身近な様々な製品に対し、身体的な状況及び使用方法等から要望があり、既製品の改良点やこんな製品があったらいいなという意見（アイディア）を収集した。主な意見は以下のとおり。
(図面等詳細は略。)

(車いす・移動関係)

- ・車いすでの雨、水対策で、両輪の水をすばやくふき取るしくみや車椅子使用中は、手が使えないので、車椅子での使用を想定したカップ等の工夫
- ・居場所のわかる帽子（発光式）、携帯用の折りたたみ椅子（固定式）など

(食器関係)

- ・食事関係では、食事を作るという面と食事を食べるという面に大きく分けられる。
食事を作るという面では、片手が不自由など様々な障害を持つ人がおり、通常であれば整形である製品が、そのために使いにくい、力を入れる力点が違うため使いにくいなど。
食事を食べる側面では、福祉的な配慮された製品は、ほとんどが無地であり、デザイン性に富んでいない、自分で使うものと介助する時に使うものとの区別がつきにくい、ストローが固い、かびが発生しやすい等の素材、管理上の問題など

(衣類等)

- ・夏用冬用オムツの区別だとかデザインへの配慮、すり足用の固い靴、調整可能な首のコルセット、お洒落なガーゼなど

注、ニーズ調査については、添付図解などをもとに、企画テーマの抽出について、今後、検討していく必要がある。